

校長室より

第97号

「天空高き」



平成29年6月14日

無遅刻無欠席・挨拶週間一まず挨拶を一

高校3年生にとっては最後の大会になった山口県総合体育大会も終わりました。これからは、一人ひとりの進路に向けて本格的に取り組んでもらいたいと思います。

ところで、6月12日(月)～17日(土)の期間は、生徒会主催の無遅刻無欠席・挨拶週間です。

早朝から、南岩国駅や楽学の石碑の前で、生徒会や運動部・文化部クラブの皆さんの元気な挨拶が響き渡ります。その声を聴くと朝から元気が出ます。



学校には多くの人が入り出ています。その外部の方々から、「生徒さんから元気な挨拶をもらいました」と、お褒めの言葉をいただくことがあります。挨拶一つで素晴らしい学校だという評価をもらえます。挨拶は魔法の言葉とも言われています。私が小学生の頃、母親から「道で人に会ったらとにかく頭を下げて挨拶をしろ」と言われたことを思い出します。まさに、「たかが挨拶、されど挨拶」ですね。

いつも挨拶に関しては、同じようなことを繰り返し、皆さんに言っていますが、挨拶には次のような良い点があります。

1つ目は、挨拶をすると笑顔になる機会が増えてくること。2つ目は、挨拶をするということは挨拶をする相手を認めるということ。3つ目は、挨拶は礼儀の基本で、常識のある人という評価が得られること。4つ目は、挨拶をきっかけにして会話が始まること。挨拶という漢字には心を開いて歩み寄るという意味があります。

作家の三浦綾子さんは、「挨拶がきっかけで出会った二人の間に何が展開するか、わからないのだ。良くも、悪くも、かかわりが生ずることなのだ。挨拶の目的は、つまり人間は人間とかかわり合って生きて行くという姿勢にさせることにあるのであろう」と述べています。

礼は別な言葉で言えば、他者を尊ぶということである

宮城谷昌光「重耳」より

整理・整頓—6月の目標—

今月の目標として「整理整頓」を掲げています。気象庁から山口県では6月6日に梅雨入りしたと見られるとの発表がありました。これから、ジメジメする嫌な気候が続きます。特に、食品関係はカビが繁殖しやすい時期ですので、気を付けてください。また、教室のロッカーなどに体育が終わった後の体操着を入れておくと衛生上好ましくありません。この時期は特に整理・整頓を心掛けましょう。



左の写真はF1-4の靴箱です。このように整然と置かれていると気持ちの良いものです。しかし、下の写真を見てみると制服が床の上に放置され、また机にも辞書や筆記用具等が出しっぱなしになっています。毎日着たり、使っているものは大切にしたいものです。皆さんは保育園や幼稚園に通い始めたころから、先生方やご両親からも耳にタコができるくらい、口やかましく指導されてきたと思います。

いつも快適な環境で効率よく学習をするには、整理と整頓をしてきれいになった状態を維持する必要があります。そして、維持した状態を保ち続けるためには、整理・整頓を習慣づける必要があります。

実は、私も整理・整頓が苦手です。整理・整頓ができている人は、物を捨てるのが上手だと思います。整理・整頓の苦手な人は、まず整理、物を分けて不要な物を減らすことから始め、次に、整頓というステップに入ると、物が片付けられると思います。ちなみに、「片付け」とは、「出した物を元に戻すこと」、「物事に片をつけ、リセットすること」といった意味があるそうです。

整理・整頓のポイントは「分ける」「捨てる」「定位置を決める」といえます。

整理・整頓が習慣化すると、

1. 学習の効率が上がる（集中力がアップする）
 2. 忘れ物が減る
 3. ミス（事故）を防止する、
- などの効果が期待できると思います。

ちょっと素敵な言葉—忘れられない教師の一言—

ある雑誌にこんな記事が掲載されていました。

・・・・・・その同窓会も盛り上がり、急に「忘れられない教師の一言」という話題で話に花が咲きました。

まず、市役所に勤めているというA君は数学の先生のT先生が一番心に残っているそうです。

彼は高校時代、数学が苦手なテストではいつも50点台でした。数学の先生は、「90点の点をとる生徒は10点しか伸びることができないが、君は40数点も伸びることができる。当然だが、90点の生徒より君の方が伸びる可能性が大きい。だから、あきらめず基礎的な問題からやり直しなさい」と言われたそうです。

その先生の励ましの言葉と温かい指導で数学を勉強するようになった、今の自分があるのは先生のお陰です、と話してくれました。・・・・・・

出典 平成29年度月間高校教育増刊



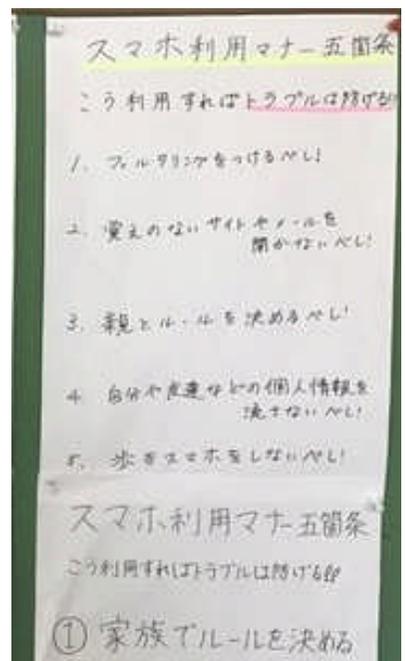
ケータイ・スマホ利用マナー五箇条

右の写真は付属中の掲示板です。

都会と地方では特に中学生の所持率が異なるかもしれませんが、ケータイ・スマホの所持率は中学生2人に1人、高校生では20人に19人です。

ケータイ・スマホの危険性についてはもう皆さんは何度も聞かされて、十分わかっていると思いますが、現実には皆さんの身近なところでいろいろな問題が発生しています。私も含めて、ケータイやスマホを所持している人ならば、何らかのトラブルに巻き込まれた経験があると思います。ルールやマナーを守っていてもトラブルに巻き込まれる可能性があります。つまり所持していれば誰もがいつでもどこでも事故や事件に巻き込まれる可能性があるということです。見方を変えれば、ケータイ・スマホの所持は災害にあう危険性と同じといえます。

危機管理にあたっては、「さ：最悪を想定して」「し：慎重に」「す：速やかに」「せ：誠実に」「そ：組織で」対応することが必要対応することです。皆さんがまず、ルールやマナーを守ること、そして、もしトラブルに巻き込まれたときには、すぐに身近な大人、家族や先生、こども110番などの子ども相談窓口などの関係諸機関に勇気をもって相談することが大切です。



「言葉の力」 池田晶子

言葉を信じていない人は、自分のことをも信じていない。
しかし、自分を信じていない人生を生きるのは、とても苦しくて大変だ。
言葉ではああ言ったけれども、本当はそうは思っていない。
そんなふうにはしか生きられない人生は不幸だ。言葉と自分が一致していない人生は不幸だ。
だから、本当の自分はどこにいるのかを、人はあちこちに探し求めることになる。
しかし、本当の自分とは、本当の言葉を語る自分でしかない。
本当の言葉においてこそ、人は自分と一致する。
言葉は道具なんかではない。
言葉は、自分そのものなのだ。

だからこそ、言葉は大事にしなければならないのだ。
言葉を大事にするということが、自分を大事にするということなのだ。
自分の語る一言一句が、自分の人格を、自分の人生を、確実に創っているのだと、
自覚しながら語ることだ。
そのようにして、生きることだ。

言葉には、万物を創造する力がある。
言葉は魔法の杖なのだ。
人は、魔法の杖を使って、どんな人生を創ることもできる。
それは、その杖をもつ人の、この自分自身の、心の構え一つなのだ。

中学『国語3』

池田晶子(1960-2007)哲学者、文筆家

作品「考える人」「帰ってきたソクラテス」「考える日々」「14歳からの哲学」など多数

24節気

夏至（げし）：6月21日頃

北半球では、太陽が最も高く昇り、1年で最も昼が長い日です。ただ、日本では梅雨のシーズンでもあるので、日照時間が短く、あまり日の長さを実感できないかもしれません。暦の上では夏の折り返し地点にあたり、夏至を過ぎると暑さが増して本格的な夏がやってきます。体調管理には十二分に気を付けてもらいたいですね。